

特集

地域を守る消防団

普段は本業を持ちながら、地域の安心・安全確保のために活躍する消防団の団員について、地域での活動の内容や団員の声をお伝えします。



三條市消防団 団長
もろはし かずのり
諸橋 一徳

消防団員の必要性

近年、災害は多様化しています。その中で消防団は、7・13水害、7・29水害でもそうでしたが、自然災害が発生すると出動し、住民の避難誘導、水防活動を行っています。また、火災が発生すると、いち早く現場へ駆け付け、消火、警戒などを行っています。さらに、火災を未然に防ぐため、積載車による注意喚起や火の用心チラシの配布、女性消防隊による各種イベントでの啓発活動など幅広い活動を行っており、消防団は市民の皆様の安心安全な暮らしの維持に貢献しています。

組織の再編成

現在、地区ごとに消防団員がおり、積載車や資機材が装備されていますが、消防団員の高齢化や減少に伴い、これまでと同等の活動をすることが困難な地域が現れてきました。そのため、4月から、管轄区域を見直すことで団員の欠員を解消し、市内全域を均等にカバーできる体制に再編成します。

消防力の強化へ

この組織の再編成により、主軸の消防団員、後方支援・救護を行う女性消防隊、学生消防隊を含めた組織全体の安定性を高め、より多様な災害に備

えられる体制に強化します。

くわえて、最近では、災害発生時の消防団員への連絡や市民の皆様への情報発信などに、さまざまなツールを活用しています。消防団員の出勤状況や必要な情報をタイムリーに共有でき、スピード感ある活動につながっています。

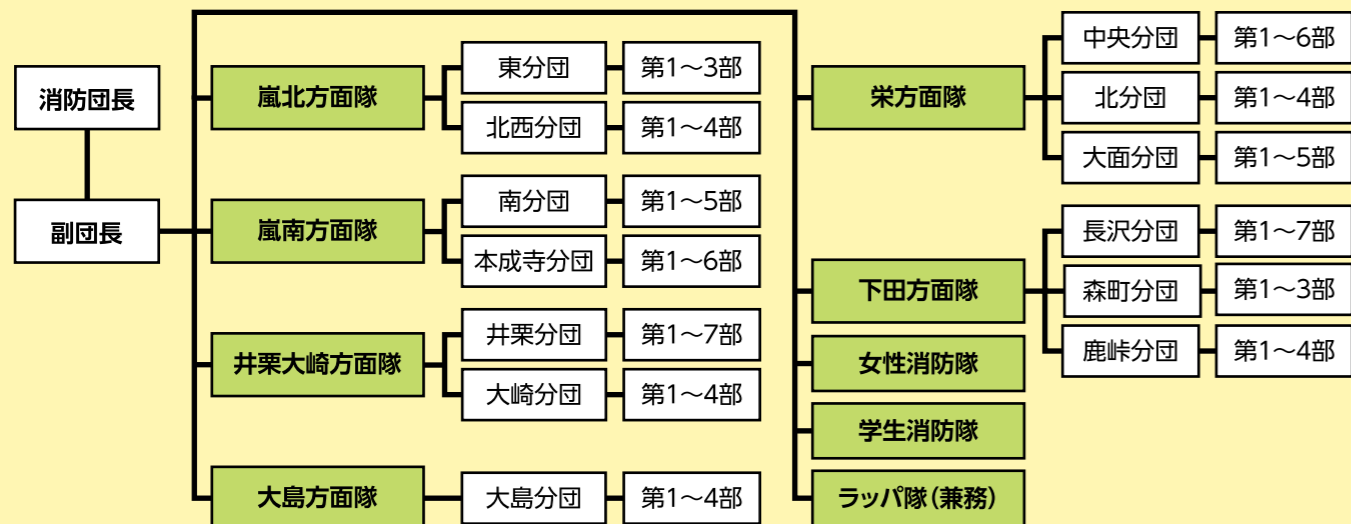
自然災害はいつ発生するかわかりません。災害の規模などによっては、自治会、自主防災組織の皆様と連携しながら活動することもあります。引き続き、地域に密着した消防団、消防団員として、地域を守っていききたいと考えています。



消防団組織図

(4月以降)

地区差が出ている団員数を均等にし、慢性的に欠員が生じている課題解決のため、4月に再編成します。
*再編成により消防力が低下することはありません。



消防団の役割

災害時

- 火災発生時の消火活動
- 水害発生時の水防活動
- 大規模災害発生時の救助・救出活動、警戒巡視など



平時

- 災害に備えた各種訓練・点検
- 防災や応急手当の知識の普及啓発・広報活動

消防団は「自らの地域は自らで守る。」の精神に基づいて、各市などに設置された機関です。三條市の消防団には、三條市立大学の学生による学生消防隊37人を含む、男性999人、女性20人、合計1,019人が在籍しています。普段は学生や会社員などの人が、火災や災害が発生したときに出勤して活動しています。また、平時には、災害に備えた訓練や点検、火災予防の啓発活動なども行っています。